「あついこころ」を道政に！

おおこしあつこは、経済や道民生活に深刻な影響を及ぼしている新型コロナウイルスへの対応をはじめ、さまざまな道政課題を、前に進め、令和にふさわしい新時代を全力で切り拓きます。

道政報告　食品ロス・人口減少・新型コロナ対策　おおこしが前向き答弁引き出す

12月3日、おおこしあつこが第4回定例会本会議で行った質問がきっかけとなり、道教委は「観光教育ガイドブック」を初めて作成し、道内の全小中学校に配布しました。

また、おおこしは3月19日の道議会予算特別委員会で、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う道内小中学校等の一斉休校について取り上げ、指導できなかった学習内容を進学した学校や進級先の学年に確実に引き継がれるよう求め、道教育長から市町村教委に指導助言するとの答弁を引き出しました。

休校中の学習、進級後に

▲釧路新聞に掲載

北方領土フェスティバルに出席

「北方領土の日」の2月7日、雪まつり会場で「北方領土フェスティバル」が開かれ、おおこしも出席しました。元島民が6000人を割り込み、平均年齢も85歳を迎えるという状況の中、返還に向けた機運の醸成のため、おおこしも全道の皆さまの思いを背負って頑張ります。

経済委員会で道外企業を視察

おおこしが所属する道議会経済委員会が1月下旬、新産業育成の先進事例を調査するため、道外を視察しました。宮崎の㈱ムスカでは、最先端のバイオテクノロジー技術を学び、沖縄の航空機整備施設、愛知のデンソー、アイシン精機の関係者と意見交換しました。

恐竜・化石により地域活性化

「むかわ竜」は日本最大級の全身骨格化石で、観光振興や教育の分野での活用に期待が寄せられており、おおこしも地域活性化につながるよう取り組んでいきます。

▲むかわ竜を発掘した北大の小林教授と

新型コロナウイルス対策に全力！

北海道の新型コロナウイルス緊急対策

1.感染拡大の防止と医療提供体制の強化

❶検査体制の整備【1億300万円】
❷医療提供体制の強化【7億5300万円】
❸子供や重症化リスクが懸念される方への感染拡大の防止【3億4300万円】
❹安全・安心につなげる情報の発信【100万円】

▲自民党議員会が鈴木知事に緊急申し入れ

2.道内経済や道民生活への影響の緩和

❶中小・小規模事業者の事業継続・雇用維持を強力に支援【813億2300万円】

・道独自の資金繰り支援として、短期資金の融資枠「新型コロナウイルス感染症緊急貸付」を創設し、信用保証料を軽減
・経営環境変化対応貸付の融資条件を緩和し、低利融資を拡充

❷感染リスクを低減しつつ経済活動を行う取り組みを支援【2億3300万円】

・北海道ブランドの維持に向け、通販サイトを活用し、道産品の割引販売を実施
・中小・小規模事業者に対する相談体制を構築し、事業活動の維持を後押し

❸学校の臨時休業等に伴って生じる課題への対応【14億2400万円】

・収入減少世帯を対象に生活福祉資金の特例貸し付けを実施
・放課後子供教室の運営支援などを実施（放課後児童クラブへは国が実施）

▲感染者の発生状況について説明する鈴木知事

❹行政手続等に係る臨時措置

・個人道民税、個人事業税など道税の申告・納付期限の延長、申請期限の延長
・公共事業や物品購入における工期や履行期限の柔軟対応、繰越しの弾力的な対応